

公益財団法人 庭野平和財団御中

東アジア次世代リーダー育成プログラム

・ “国家主義を超えて: オルタナティブ的共同体として「まち」”

平成 27 (2015) 年度 活動報告書

平成 28 (2016) 年 5 月 20 日

ARI (Asia Regional Initiative)

●活動の目的

本プログラムは、東アジアの抱えるさまざまな共通の課題を共有し、問題解決のため共に努力する新しいリーダーシップを育成することを目的として開始しました。特に、かつては多地域・多宗教間にわたって連帯と協力関係のあった宗教者ネットワークに焦点をおき、宗教間・国家間の障壁を越え東アジア共同の未来を構成することのできる人材を育成することを目的としています。地域（local）に根を張り、地球的な（global）ビジョンを共有して協力できる「東アジア人」として、宗教者としてまたは地域活動家として新しいリーダーシップを築き上げるために、3カ年をひとつの期間としてプロジェクトを実施しようという試みです。

本プログラムは、このような脈絡から、国家を超えて宗教間で協力する次世代教育を、まずは日韓間ではじめようと準備されました。本プログラムの参加対象者は、僧侶、牧師、神父など宗教指導者だけでなく、一般の信者も含まれます。ただし、自分の基盤である地域で活動してきた経験または意志のある人を中心とし、自分の現場をもって考えることのできる20～40代の活動家および宗教者を対象とします。

また、本プログラムは上から下へと教える教育ではなく、自ら考え、討論するプロセスを通じて共通の問題意識を発見し、各々がなぜこれを自分の問題として考えられるのかを省察する機会を与える方法で進めます。特に、未来に対するビジョンを共有するために、望ましい未来だけでなく最悪の状況にもなり得ることも含めた未来を想像することによって、多様なシナリオを構成し、そこから自分たちのオルタナティブ（代案）を模索するワークショップを進めます。このシナリオワークショップから、違う世代が共に考えられる未来を共有して、違う場所、違う宗教、違う年齢にもかかわらず、一緒に力をあわせることが可能だと思います。本プログラムのもう一つの目的は、「世代間対話の醸成」であり、若い次世代だけを育成するためだけでなく、違う歴史と時代を経験している先輩と後輩が互いに対話を通じて持続可能な未来を作っていきます。

●活動内容

第2回 東アジア次世代リーダーシッププログラム SEAL (School for East Asia Leadership) 2015 の実施

【期間】

2015年6月29日（月）～7月3日（金）

【開催場所】

東京および埼玉県 国立女性教育会館（ワークショップ）、小川町（スタディツアー）

【テーマ】

「国家主義を超えて: オルタナティブ的共同体として「まち」

- ・ 国家主義、ナショナリズムを超えてオルタナティブな世界をめざす日韓の宗教者として、代案的な共同体としてのまちについて模索し、その価値について考える。
- ・ アジアと韓国・日本の近現代の歴史を振り返り、近代化・都市化によってまち(地域)が崩壊した歴史的な背景を理解する。
- ・ 「まち」をコミュニティ、共同体、自分の生活や宗教活動の現場として再定義し、私たちにとって代案的な共同体とは何かについて討論する。

【問題意識の背景】

21 世紀最初の 10 年は、9.11(2001)と 3.11(2011)が象徴するように、文明の危機がどれほどの災害をもたらす可能性があり、またこのような危機に対して既存の国家では市民の安全を守ることがいかに難しいかということを知らしめました。

東アジアは過去とは違い、1992 年の韓中国交正常化および 1998 年の金大中大統領と小渕首相による日韓 21 世紀の新しいパートナーシップ宣言によって、冷戦下で固く閉ざされた日中韓の壁は壊れ、21 世紀の日中韓の人の交流と経済交流は驚くべき速さで変化しました。特に、中国の浮上とともに、地域(Region)として東北アジアは新しく注目を集めはじめました。

しかし、東北アジア地域は 20 世紀の課題と 21 世紀の課題が重複しているにもかかわらず、この問題の解決は時間的にも空間的にもすべて断絶されています。例えば、東北アジアの領土の葛藤(日中間:尖閣/魚釣島、日韓間:独島/竹島、日露間:北方領土/クリル列島など)の問題は、国家間の葛藤だけでなく、各国のナショナリズムを刺激し、その核心には 20 世紀の歴史問題が存在しています。それだけでなく、「北朝鮮問題」はいまも冷戦を強化する東北アジア地域特有の問題のまま残り、解決に至っていません。また、2011 年の東日本大震災と福島原発事故の災害にも関わらず、東北アジア 3 カ国は 20 世紀の強勢大国の夢から脱することができず、原発事業をむしろ強化しています。

東北アジア地域は、すでに少子高齢化社会による労働力の大規模移動を通じて多文化社会を構成しながら、国境を越える人的交流と文化交流が進行しています。それにともない、鳥インフルエンザなど新しい伝染病、黄砂問題と放射線汚染の懸念などは、21 世紀の課題の中で、そのどれに対しても効果的・融合的・未来志向的には対応できていません。ここには根本的に国家利益に基づき、そして中央集中型の早い成長をはかってきた近代国家のパラダイムが存在しています。

しかし、現実問題に迫ってきた環境とエコロジーの問題、そして日常の平和の確保は、国家のパラダイムというよりも、辺境または地域(local)においてより切迫しており、そのような思想と実践を同時に発展させてきました。例えば、日本の水俣地域で提示している「地元学」は「土と風の哲学」を強調しながら、開かれた地域社会つまり自己省察的地域と、外部に開かれコミュニケーションする地域づくりをビジョンとして、新しいまちづくりのモデルとなっています。このように、21 世紀の問題に対応する方法は、ソウル、北京、東京などの中心地で行うより、周辺、辺境、そして小さい地域(ムラ、まち)で始まっており、これらはすでに国境を越えて交流し、互いに学び、新しい共同体を構成しています。

宗教団体もまた、かつてはこのような問題を直視し、1970 年代は各国の民主化と平和問題をめぐってさまざまな形で力を尽くし、また国家の壁・宗教の壁を越えようと協力の枠組みを発展させてきました。例えば、第一回世界宗教者平和会議(WCRP)が 1970 年に京都で開催され、東アジアの平和のための多様な宗教間の協力関係を主導してきました。しかし、この 10 年間、宗教界ではこのような協力関係にも関わらず新しい問題に直面しています。ほ

とんどすべての宗教、すべての国家で経験している共通の新しい問題とは、「リーダーシップの危機」です。20世紀の課題と21世紀の課題が同時に現れているにも関わらず、これを歴史的に洞察し、空間的に協力するということを作り出せずにいます。その問題には、旧リーダーシップが消えつつあるにも関わらず新しいリーダーシップが登場しないという空洞化現象が存在しています。

同時に、これまでに比べ東アジアの政府間の政治的課題による圧力の低下、経済的発展に伴う一般人の往来の増加、それに伴う相互理解の増大により、日韓両国間の政治的、文化的バイアスは低下していると考えられます。しかし、交流は活発になっても効力はまだ弱く、歴史を含めた国家主義などを超えるような根本的な意識は変わっていないため、東アジアの共同の未来を共に開拓し、共同の歴史認識を深め国境を越えるような協力関係までには、まだ至っていません。

このようなことから、宗教者たちには、新しい現在の問題を共同の問題と捉え、問題解決の知恵のためにともに努力し、宗教間・国家間の壁を越え、東アジア共同の未来を構成することができる次世代リーダーシップの育成が求められています。この流れから、本プログラムは、国家を越えて宗教間で協力する共存のフレームを基本に、今日人類が挑戦している問題を批判的に省察し、そのオルタナティブを一緒に作るための次世代教育を、まず日韓間で始めようという意思から始まりました。

【ワークショップ】

Issue defining & Alternative (IA) ワークショップ

今回のワークショップでは、第1回に議論したものを振り返り、1年前に議論した問題と現在の問題を比較しながら、今後の課題を共有することから始め、今後のオルタナティブを模索しました。今回は、2014年に一緒に作ったシナリオを参考し、別のシナリオを作らずに、世代別、国別、宗教別のグループディスカッションを通じ、未来向けの課題を鮮明にすることにフォーカスを与えました。特に今回は、世代を超える歴史的な観点とまちおこしの活動からの知恵を学ぶ機会を作って、我々の議論がただの構想ではなく、現場で実践可能であるものということをもっと確信を持ってやっつけていけることを目標にしました。

6月29日(月)

18:00~21:00 オリエンテーションと特別講演

- 特別講演：“21世紀日韓関係の新しい方向と宗教人の役割”
- 講師：池明観先生

1924年、今の北朝鮮で生まれて、激動期の朝鮮半島での人生を繰り返しながら、東アジアの平和と新しい地域の協力のため、日韓関係の役割の宗教人の観点からアドバイスをくださった。特に歴史は、いつもつながるもので考えるが、歴史を超えるためには、歴史の切断も一つの方法として考えられると話しました。特に東アジアだけではなく、人類として我々が直面している課題は、宗教という根本的な生命とスピリットから見直す必要と宗教が持っているアンガージュマン (engagement)

を再活性化する必要があることを強調しました。また、特に日韓の宗教人の協力が大事であり、今後中国を含めたアジアの協力の柱になって欲しいと述べた。

6月30日(火)

14:00~17:00 セッション1 <日韓が直面している課題>

〈ねらい〉

この1年間、日本と韓国で起こった出来事を通してそれぞれの国が直面している課題を整理する。双方の興味・関心を知るとともに社会問題を自らの関係と重ね合わせて考えてみる。また、なるべく自由に意見を出しやすい雰囲気をつくる。

〈進め方〉

- ① 2014年~2015年現時点までの間に起こった事件や出来事などから、自分が重要だと課題を3つ決めて、それぞれポストイットに書く。
- ② 日本側と韓国側に分かれて話し合い、一番重要だと思うそれぞれが直面している課題を5つ決める。
- ③ 日本側、韓国側それぞれ選んだ5つの出来事を一つずつ簡単に説明する。
- ④ これらの社会問題について、自分との関わりと感想、これについてどう思うかなど全体で意見交換する。

18:30~21:00 セッション2 <自分の直面している課題>

〈ねらい〉

セッション1で共有した課題に対して、それぞれが属している宗教団体と自分自身を結び付けて考えることで、社会が直面する課題を身近な課題としてとらえなおす。

〈進め方〉

- ① “自分の課題”を考える材料として、3つの質問について考える。

質問1

現在のさまざまな社会問題において、自分の属している宗教団体、活動団体はどんな役割を果たしていると思いますか？

質問2

役割が十分に果たせていないと感じる場合、あなたの考える問題点は何だと思いますか？

質問3

その問題点に対して、自分自身はどのように向き合っているのでしょうか。ご自分の日頃の課題や悩みなどとともに教えてください。

- ② 各自で考えた後、日本と韓国のグループで分かれて意見交換して、全体で共有（15分ずつ）
- ③ 鄭ジヌ牧師、野口さんから参加者の意見を聞いた上でのお話
 - ・ 国家主義を超えて——オルタナティブな共同体としての「まち」
 - ・ なぜ「まち」がなくなったのか——国家建設の中での地域・まちの解体がなぜ起きたのか
 - ・ まちづくりがなぜ大事なのか
 - ・ 国家化、都市化の中での教会の機能（韓国の教会の巨大化）
 - ・ 宗教は現代人の中でどう弱くなっていったのか など

7月1日（水）

9：00～12：00 セッション3 <オルタナティブを模索する①>

〈ねらい〉

セッション2でとらえなおした課題に対して、それぞれが属している宗教団体や自分自身のオルタナティブを探るためのヒントとして、宗教者として地域で活動する事例に学ぶ。

〈進め方〉

- ① オルタナティブの一つの事例として、安陽 YMCA で活動している宗教者の地域活動の報告を聞く。
 - ・なぜ、自分が地域活動をやっているのか
 - ・自分の考える「まち」とは何か
 - ・オルタナティブとしての「まちづくり」の役割
 - ・自分の生きがいや悩みは何か
- ② 課題を乗り越えるために宗教団体や一人ひとりが何ができるのかを自分なりの発想で考え、発表・共有する。

13：00～17：00 セッション4 <オルタナティブを模索する②>

〈ねらい〉

セッション1～3まで出し合ったオルタナティブを繰り返しながら世代別に議論し、今後の課題に関して、若い世代が問題意識を共有し、今後協力が可能にすることを目的にする。

〈進め方〉

- ① それぞれの世代が感じている問題を発表し、日韓の間での共通の世代問題と違う問題からお互いの特性と課題を学び合う。
- ② 世代別の議論をまとめ、報告する。
- ③ 世代により、現在の問題意識がどう違うか、課題のプライオリティがどう違うかをお互いに理解する。ここから世代の間での協力が可能なことを発見する。

セッション5 <オルタナティブを模索する③>

〈ねらい〉

今まで出し合ったオルタナティブを一人ひとりが具体化させるとともに、参加者による一つのオルタナティブとして SEAL プログラムを作り出す。

〈進め方〉

- ① 参加者一人ひとりが自分として1年以内と3年後に着手するオルタナティブの具体策を考えて議論する。
- ② 考える方法として、ワークシートを作成する。
- ③ ワークシートを作成したことを元にして第3回までの自分の課題を明らかにする。

7月2日(木)

【スタディーツアー】

1. 有機農業から町おこし

- 訪問：小川町、霜里農場
- インタビュー：金子美登（かねこ・よしのり）
霜里農場の経営者、有機農業の開拓者、有機農業からまちおこしへとつながる。小川町でのゴルフ場開発反対運動を行い、1999年から小川町議会議員として現在5期目である。
- 内容：農業は、自然のもの、生命のものという哲学から人々の暮らしに基づいているまちの中心になる。やはり食べ物を育てていく農業を大切にすることで有機農業にこだわる。1970年代から約40年以上の農業のやり方で、経済発展のため全力した当時とは違うライフスタイルをやってきて、変人と言われたが、今は、彼の有機農業の大事さと信頼でまちづくりの主な柱になっている。ただの農業や安全な食べ物だけではなく、自然との関係、生命との関係から人々の命、育ち、つながり、豊かさを見直す大事な価値を実践している。

2. 小川町のべりカフェ

- 訪問：小川町、べりカフェ・つばさ・遊
- インタビュー：高橋さん
‘べりカフェ・つばさ・遊’のコーディネーター。
- 内容：
自給を中心とした循環農業をすすめる埼玉県小川町のNPO生活工房「つばさ・遊」が企画運営する「べりカフェ」は、地元の有機野菜が主役。作り手もメニューも日替わりで、卵かけご飯からピザまで得意料理が提供される。
(http://www.yuki-eiga.com/films/beri_cafe
：国際有機農業映画祭のサイトから) 高橋さんは、循環農業で、毎日、違う人々が担当して、曜日によって店舗の人と飾り、料理などが全て変わる面白いカフェ運営方式で、もっと多くの町の人々の参加を進めている。またカフェは、ただの食堂ではなく、人々のつながる場にもなっている。

3. その他。

- 丸木美術館
- 清雲酒造と玉井屋
- 佐藤太と対話：グローバルからローカルへ～ある人生の理想・現実・課題～

【ワークショップ プログラム】

6月29日(月)

午前	ソウル出発
午後	羽田空港到着 →移動
	宿泊場所到着、簡単な夕食
夜	池明観先生の講義(場所未定)
	立正校成会 団参会館 宿泊

6月30日(火)

午前	朝食
	丸木美術館 見学
午後	昼食
	国立女性教育会館 到着
	ワークショップ:セッション1
夜	夕食
	ワークショップ:セッション2
	就寝(女性会館にて宿泊)

7月1日(水)

午前	朝食
	ワークショップ:セッション3
午後	昼食
	ワークショップ:セッション4
	ワークショップ:セッション5
夜	夕食
	スタディツアー・オリエンテーション
	就寝(女性会館にて宿泊)

7月2日(木) ※小川町スタディツアー

午前	朝食
	小川町へ出発
	- 霜里農場訪問 金子さんの説明、質疑応答(90分) 有機農場見学(60分)
午後	昼食(まちカフェ)
	- 地域活動家からのお話
	- 地域活動の見学
夜	夕食、感想会
	就寝(女性会館にて宿泊)

7月3日(金)

午前	朝食
	ワークショップ:全体のフィードバック
午後	昼食
	女性会館出発
	(韓国参加者は東京フィールドワーク)

●活動の成果

1. **趣旨への共感**：今回の成果で一番大事であったのは、第1回から第2回に参加した参加者がなぜこのワークショップが地域（まち）を大事にしながら国家主義を超えて日韓でまず始まったのかを理解し始めたことである。約三分の二の参加者がトライアル（第0回）から参加したが、2014年までは、趣旨は、わかりましたが、自分の問題意識までは、はっきり自信がなかったと述べた。しかし、今回のワークショップや小川町のやり方などを見て、なんとなくこれを自分のものとして取り上げはじめたと言いました。
2. **参加者の多様性**：また、宗教団体の多様性が増えて、韓国側は、今まではプロテスタントが多かったのですが、今回は、曹溪宗(仏教)と円仏教が対等な比率で参加しました。特に両方とも、積極的に参加し、横つながりが広くなりました。日本側も、今までは、立正佼成会が主になっていたのですが、今回は、人数は、それぞれ一人ずつでしたが、仏教、プロテスタント(NCC)、メソヂスト、YWCAなどが参加しました。
3. **宗教人と活動家の協力**：スタディーツアーによる活動者との対話や協力もありますし、ワークショップの参加者に地域でのまちづくりを主にやっている方々が関心を持って一緒にやることによって宗教と地域の協力を模索する機会を増やしていきます。
4. **毎年による脈絡の形成**：2014年から、韓国と日本の10大ニュースを選んでお互いに説明しながら相手の国の事情をもっと興味を持ってわかるようになりました。韓国の参加者では、日本語学習を始める人々もでき、日韓関係を新しく考えるきっかけになっているのは、間違いありません。
5. **フォローアップ**：やっと、まちづくり、地本学、豊かさ、国家主義を超えること、宗教間の対話または協力など、このSEALでの主なキーワードをそれぞれ自分の言葉として言い始めたのは、非常に重要な成果である。ここから参加者は、年1回のワークショップだけではなく、それぞれの勉強会を開くことを決めた。これによって韓国では、今まで2回、日本でも3回の学習会が開きました。

*参照)

1) 日本：

◎SEAL2015秋プログラムin青梅

日程：2015年11月2日（月）～3日（火・祝）

場所：立正佼成会 青梅練成道場

内容：SEALのふりかえり

青梅の自然となかよくなるろう（シェアリング・ネイチャー）

地元学&青梅という土地について

SEALのこれからについて

◎SEAL日本在住組 学習会

日時：2016年2月2日（火）18：30～20：30

場所：庭野平和財団会議室

講師：桃井貴子さん（気候ネットワーク東京事務所長）

テーマ：世界が直面する気候変動の危機と対策

——日本と東アジアが取り組むべきこと

◎SEAL日本在住組 学習会

日程：2016年5月20日（金）～22日（日）

場所：立正佼成会 青梅練成道場

内容：「地元学」ワークショップ

吉本哲郎さん（地元学ネットワーク主宰）を招待

2) 韓国：

◎SEAL2015 ファローアップミーティング

日程：2015年9月16日（水）

場所：韓国NCC会館

内容：SEALのふりかえり

第1回と第2回参加者の紹介と親交

◎SEAL2015 ファローアップミーティング

日程：2016年2月17日（水）

場所：鍾路コーヒショップ

内容：時評：韓国の社会正義問題と南北問題に関する議論

宗教人の役割の社会参与

●今後の課題

1. ワークショップのプログラムの発展：ISA というワークショップの方法論を発展してマニュアル化する課題があります。これによって、参加者が自分なりに自分の地域でも活用し、人々の参加を勧めるし、新しいコミュニティにもっとコミットメントをすることに役に立つようにする必要があります。
2. 第2回目のワークショップから始まった学習会を促進する必要性があります。また、韓国や日本でそれぞれやっている勉強の内容をお互いに伝えて相互理解を進んでいく方法を工夫しなければなりません。ここには、言葉の壁もありますが、様々な障害を乗り越え常に学び合い、常に情報交換ができる場を作る必要があります。
3. 今回で両国とも宗教の多様性が増えましたが、これがもっと緊密に協力ができるような宗教間の協力を高める必要があります。
4. 3回までは、日韓両国の参加者が中心になっていますが、今後アジアに向けて少しずつ日韓以外のアジアの宗教人との協力も考え始める必要があります。
5. もし可能であれば、第3回目のワークショップが終わるところからは、情報交換でもいいですので、日韓の間で協力ができる具体的なプログラムが参加者の間でできるように頑張る必要があります。